

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600144
法人名	社会福祉法人南之郷
事業所名	認知症高齢者グループホーム南之郷
所在地	鹿児島県曾於市末吉町南之郷8130番地1 (電話) 0986-78-1107
自己評価作成日	令和1年11月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人南之郷は、平成26年4月7日に開所した施設です。農業法人と一体となり、ご利用様が活躍できる場として、農業の軽作業を行っています。慣れた手つきで、シソ・ネギ・ニラなどを選定されています。また、施設のミニ農園では、さつま芋や夏野菜(トマトやピーマンなど)の植え付け、収穫をご利用様と一緒にしています。

閉校した中学校の建物を改築し、地域の方との交流の場にもなっています。建物の南側には広いグラウンドがあり、イチョウや桜などの木々が季節ごとに彩りを変え、ご利用様の心を癒しています。また、昨年3月末に完成した東屋にて、お茶を飲んだり、歌や楽器演奏など行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時の職員が話し合っただけで決めた理念を事務所と多目的室に掲示し、毎朝、隣接する特別養護老人ホームと合同で実施している朝礼で唱和し意識付けを図っている。また、年度目標である「南之郷重点目標」を、今年度は、「地域との交流や認知症に対する理解を深める」とし、職員全員が共通認識の下、地域住民の協力を得ながら日々支援につなげている。

入居時におむつを使っていたり、病院退院時におむつになってしまった場合は、排泄の意志があることを確認し、徐々におむつから布下着に替えていく努力を行っている。また、リハビリパンツやパットに頼らないで過ごせるよう、日中はトイレでの排泄を基本とし、職員が連携してトイレ誘導を行っている。

介護計画は、本人と家族の意向を基に、担当職員の意見やカンファレンス、モニタリングを繰り返し行うことで身体状況や要望の変化に気付き、その都度、状態に即した介護計画を作成している。また、主治医意見書や、受診時に確認した医師の助言も参考にすると、関係者の意見や思いも介護計画に反映させている。

消防署立ち会いの災害訓練を年1回、地域住民の参加を得ながら実施している。訓練は、地震や風水害、不審者対応等、多岐にわたり実施することができる。備蓄は隣接する特養の厨房で一括管理すると共に備品については、ヘッドライト付きヘルメットやカセットコンロ等備え、避難の際に頭部を保護できるよう頭巾の購入を検討しているところである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人南之郷の理念を掲示し、毎日朝礼で唱和する事により、職員全員が共有し理念に基づくケアの実践につなげようとしている。	職員が考えた理念を事務所と多目的室に掲示し、毎朝唱和することで意識付けを図っている。また、年度目標である「南之郷重点目標」を作成し、理念と共に職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流の場として、月1回いきいきサロンを開催している。また七夕には、毎年幼稚園児が来所し飾りつけを一緒にしている。	法人主催の夏祭りや運動会に家族や地域住民等に声をかけ参加してもらい、事業所が準備した食事を囲み、楽しい時間を過ごしている。また、毎年幼稚園児と一緒に七夕の飾りつけを行っており、利用者の笑顔が見られるよい交流の場となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	南之郷いきいきサロンを月1回開催している。毎月色々な内容で、地域の方が御利用者様と交流できる場をつくっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。入所・職員状況・事故・ひやりはつとに関する事、行事内容の報告、テーマを掲げての研修等を行っている。御家族様や地域の方、市の職員の方の意見をサービス向上に生かしている。	会議には家族や民生委員、行政職員等が参加し、主に活動内容やヒヤリハット、事務報告等を行うほか、身体拘束や虐待に関する勉強会を組み込むなど、互いに学ぶ時間も設けている。家族からは感謝の言葉をもらうことが多く、職員のモチベーション向上につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議以外でも運営や現場の状況について、相談や報告を行っている。ほっとカフェ、包括主催のケアマネ研修会、文化祭等に参加し、交流を深めている。	行政とは相談事がある時や介護保険関係の書類提出時に出向き意見を求めている。また、地域包括支援センターや関係事業所と共に、市民祭でカフェを開くなど、日頃より関係を密に取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、全体会議の中で勉強会を行っている。また、日々のケアの中で、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、事故の無いよう声かけ、見守りを行い日中自由に出入りできるようにしている。	「身体拘束虐待廃止委員会」や法人全体会議で、定期的に研修を行い、毎月の職員会議で報告している。また、言葉による拘束については、職員間で気を配り、声をかけ合うようにすると共に、繰り返し勉強会を行うことで、注意喚起と意識付けを図っている。職員は日頃より、見守りと声かけを徹底させることで自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修等で虐待について学ぶ機会をつくり、職員全員で注意を払い防止に努めている。委員会の取り組みの一環として、職員のメンタルヘルスも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、今後勉強会を行い、必要時、日常生活支援事業や成年後見制度を活用できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書・利用契約書について、ご家族様・御利用者様に説明を行い、同意を得て、署名捺印を頂き、契約が締結している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に日常の様子を話し、意見や要望を聞いている。話をできる御利用者様については、日常会話の中から要望を聞いている。また、ホーム入口に意見箱を設置し、投函できるようにしている。</p>	<p>日々接する中から利用者の思いを汲み取ると共に、家族からは面会時に意見や要望を尋ねている。また、家族に毎月発行している「南之郷新聞」を請求書と一緒に同封することで日々の様子を伝えることができ、意見や感想を伺う機会につながられている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回全体会議や各委員会、リーダー会議を開催し、職員の意見等を聞く機会を設けている。意見や提案をいつでも聞けるような雰囲気づくりに努めている。職員が自主的に活躍できる機会を設けている。</p>	<p>法人全体会議や職員会議、各委員会において職員の意見を伝えると共に職員の年齢層が広い為、働きやすい環境になるよう意見交換している。また「申し送りノート」を活用して意見や情報共有を密に行うことでよりスムーズな運営につなげている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>希望休みはできる限り可能にし休みにリフレッシュできるように配慮している。休憩場所等の設備も整えている。超過勤務もほとんどなく、互いを信頼し合いながら業務の遂行に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や自施設研修で、それぞれのスキルアップに取り組んでいる。リーダー研修に参加し、職員を育てる指導力を身に付け、互いに資質の向上を目指していく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症ホームの会に参加し、他事業所との交流を行っている。市や地域で行われる勉強会にも積極的に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人様との面談を行い、要望や不安などを傾聴している。入居後は、他の御利用者様との関係等に配慮しながら、密に声掛けを行い、ご本人様が不安なく安心して生活できるよう配慮し、信頼していただけるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談時に、ご家族様からの相談や要望などに耳を傾けより良い関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御利用者様の状態を観ながら、ご家族様とも相談し、介護支援専門員・看護師・介護職も含めて話し合いを行い、必要なケア内容を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>御利用者様の生活歴を把握することで、その方らしさを見出しその方に寄り添い、暮らしを共にする者同士の関係が築けるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、御利用者様の日々の様子を伝えることで、ご家族様とのコミュニケーションを図り、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のご利用者様が近く、近所の方の訪問も多い。隣接する同法人施設内にも顔なじみの方もおり、訪問を行っている。ご家族様の協力により、外出などの支援を行っている。	これまでの馴染みの人や場所を把握し、電話や手紙の取り次ぎを行っている。外出の希望はあまりないが、家に帰りたい要望を確認した時は家族の協力をもらい帰宅の機会を作っている。友人知人等の面会は多く、自室でゆっくり過ごしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様一人ひとりの性格に配慮し、トラブルなく過ごせるよう、職員が間に入るなどの対応をしている。また、御利用者様同士が楽しく会話できるような雰囲気づくりも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況に応じて、本人・家族からの相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望・意向は、普段の会話の中で聞き取り把握できるよう努めている。また、聞き取りの困難な御利用者様においては、ご家族様や近親者様などから情報を頂いている。ご本人様の表情や行動などから本人中心の支援を行っている。	日常の何気ない会話や様子から利用者の思いを汲み取るほか、入院先の職員や家族からの情報も参考にしながら思いの把握につなげている。また、わかりやすい言葉や地元の言葉で昔の話を尋ねたり、生活歴を詳しく聞き取ることによって、本人本位の暮らしの支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの基本情報や普段の会話の中から、これまでの暮らしぶりや生活環境等の情報を得ている。ご家族様から、これまでのサービス利用の経過や、不足する個人の情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、無理強いすることなくご自分のペースで生活できるよう、一人ひとりの現状把握に努めている。また、介護記録を通して、思いを感じとれるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様一人ひとりの課題やケアのあり方について、気づいた事があれば随時職員間で話をし、ケアマネージャーへ報告するなどしている。また、会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意見や要望を基に担当職員の意見やカンファレンス、3カ月毎のモニタリング記録を参考に介護計画を立てている。また、受診時に確認した医師の意見や内容のほか、主治医意見書も介護計画を立てる際の参考にしている。利用者の状態に変化が見られた場合は、速やかに計画を見直し、関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や、ケアの実施・気づきや工夫などを個別記録に記入し、御利用者様の生活状況が見えるような記録を書くようにしている。それによって見えてくる課題などを、チームとして共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様やご家族様の状況や意向などが変化した時、職員との話し合いを持ち、柔軟な支援やサービスが行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する同法人施設で行われる地域のボランティアの方々の慰問に参加したり、地域の小学生や幼稚園児との交流を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を重視し、入所前のかかりつけ医をそのまま利用されている。ご家族様が病院受診に同行される時でも施設の職員が同行したり、送迎するなどの支援をしている。	入居後もこれまでのかかりつけ医を家族と職員が協力して受診を支援している。受診時の内容は「介護記録」と「看護介護連絡表」に詳細に記録し、職員間で情報の共有を図っている。また、特養の医務とは随時相談ができるため、安心なケアにつながられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の関わり、健康チェック等の分析において、御利用者様の状態変化や気づきなどをすぐに連絡・相談し、適切な看護や受診を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際、医療機関関係者と連絡を取りながら、早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した場合における指針を説明し、同意を得ている。終末期の支援については、ご家族様・医師・看護師・その他関係者間で十分な話し合いを持ち、ご家族様・ご本人様の思いを尊重し、職員が情報を共有し取り組んでいる。</p>	<p>入居時に「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」を説明し同意を得るほか、入居後も状況に応じて「看取りに関する指針」を説明している。また、特養の看護師と連携を図ることができるほか、協力医療機関の医師も、緊急時にすぐに訪問できる体制を整えており、利用者と家族の安心につながっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師・事故防止委員会を中心に勉強会を行っている。本年度内に消防署によるAED講習や普通救命講習会を行う予定である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>4月にエスケープ、9月消防署・警察立会いのもと、近隣協力隊・地元消防団に協力をお願いし夜間避難訓練を実施。来年3月に消火訓練を予定している。これまで行った反省をもとに、垂直避難の訓練も計画している。</p>	<p>地震や風水害、不審者対応の訓練を実施したほか、年1回、消防署立ち会いの下で法人全体の災害訓練を地域住民の参加も得られ実施できた。備蓄については、隣接する特養の厨房で一括管理しており、米や飲料水、レトルト食品等、十分な量が確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様に合わせた声掛けを行っている。内容や対応にも気を付けている。排泄や更衣時にもプライバシーに配慮した対応をしている。	プライバシーや接遇に関する勉強会を全体会議で実施し、プライバシーを損ねない声のかけ方やポータブルトイレを使わない時の保管方法について確認している。特に方言を使う場合は、きつい言い回しにならないよう気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、御利用者様が自己決定できるような場面をできるだけ作ろうと努めている。日常会話の中でも、希望や思いを表せるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は職員の都合で日中に行っているが、無理強いしない様になっている。一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の洗面時、自分で出来る方にはブラシを渡し髪をとかしてもらい、出来ない方は職員がとがしている。男性の方は電気カミソリで髭剃りを行っている。自己決定できる方には、自分で着る服を選んでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のお盆拭きなど負担にならない程度のお手伝いをお願いしている。見守りや食事介助の必要な御利用者様があり、職員と一緒に食事をするのが難しい状況にある。年1回厨房による嗜好調査を実施し、好みや味付けなどを聞いている。	食事は特養の厨房で一括調理している。定期的に嗜好調査を行い、食べたいものを献立に取り入れたり、おせち料理等、季節毎の行事食を提供するほか、もちつきやそば打ち、梅干し作りなどに楽しみながら参加している。また、家族の協力により、外食を楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人の管理栄養士が献立を作成し、バランスの取れた食事を提供している。水分量は毎日確認し、なるべく多くの量を飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、出来る方はご自分で磨いていただき磨き残しを介助している。出来ない方は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターン、習慣を把握しトイレでの排泄が出来るように支援している。	退院後はおむつを外す方向で支援するほか、排泄の意志がある場合もおむつから布下着に切り替える努力をしている。これらの工夫は職員全員が共通認識の下で連携してトイレ誘導を行うことで排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	加齢による腸内運動の低下を理解し、水分補給や運動など行っている。いきみが出来にくいご利用者様には、下剤調整にて排便をコントロールしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回ご本人様の体調を見ながら入浴支援している。拒否のある方については、無理強いせず本人様が「入る」と言われる時に入浴して頂いている。一般浴に入れられない方は、隣接する特養の特浴にて入浴して頂いている。	入浴剤を使用したり、冬至にゆず湯を提供するなど入浴を楽しむ工夫をしている。入浴したくないと言われる方には、無理強いすることのないよう、事前に伝えたり、時間や入浴日を変えるなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の部屋でゆっくりと過ごすことが出来る。居室の照明や寝具、温度などにも注意し、安心して眠れるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者様の服用している薬の薬情を個人ファイルにとじ込みいつでも閲覧し、薬の目的、副作用などを理解できるようにしている。確実な服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味・楽しみなどを知り、日々の生活の中からそれぞれの役割、楽しみごとを見つけ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、園庭散歩や東屋にてお茶を飲んだり等、気分転換を図っている。ご家族様と食事に行かれたり、自宅に帰られたり、法事に参加される御利用者もいらっしゃる。	所有する車が1台しかないことや高齢化に伴い車椅子利用者が多い事もあり全員での外出が困難な状況にある。季節の花見やドライブ等、職員数や天候に合わせて行き先を決め、数名ずつで出かけることが多い。東屋でお茶を飲んだり、日向ぼっこをするなど、日常的に外気浴を楽しむ機会を設け気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在お金を所持されている方はいない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>「家に電話したい。」と言われる御利用者様には、職員が電話をかけて取り次いでいる。年賀状やはがきなどかける方には書いていただくなどの支援を計画している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間が昨年より広くなり窓からの灯りや、景色が見え開放的になった。季節の花を飾ったり、壁画などで季節感を感じられるように工夫している。</p>	<p>中学校を改築しているため、間取りに工夫され、8床にすることでリビングにゆとりができ、明るさも十分確保されている。毎朝の換気や加湿器の設置など、空調にも気を配るほか、手すりの消毒など感染症にも気を配り対応している。また、利用者と職員と一緒に制作した季節毎の作品が来訪者の目を楽しませている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間が、共用空間となっている。気の合った方同士で話が盛り上がることも多い。一人で過ごしたい時には、居室で過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた物を持ち込み使用することで、自宅に近い環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>エアコンと電動ベッド、タンス、クローゼットが備え付けられ、ナースコールも設置されるなど安心して過ごせる環境が整えられている。また、自宅から馴染みの品を自由に持ち込んでもらえるよう入居時に説明している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入口に個人の名前を表示することで、混乱を防いでいる また、トイレなども分かりやすく表示している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない